

## ホッとネットおおさか 今年も避難者交流会が開催されました

災害復興支援委員会 副委員長 浜田 真樹

1 さる6月25日(日)、大阪府下避難者支援団体等連絡協議会(ホッとネットおおさか)が主催する「避難者交流会」が開催され、当会も法律相談ブースを出展してきました。

「ホッとネットおおさか」は、東日本大震災から大阪府下に避難してこられた方を支援する団体や避難当事者団体等の活動を支援することを目的に、平成24年5月に設立された団体です。当会は、設立時から加盟するとともに、大阪府社会福祉協議会等とともに事務局団体を務めています。

2 ホッとネットおおさかは一昨年からの避難者交流会を主催しており、今年で3回めです。発災から時間が経ったため、避難者が集い、交流する場も徐々に少なくなっているとともに、世間の関心も薄れてきていることも否定できません。ホッとネットおおさかには、こういった現状に対処するため、この交流会を開催しています。今年も、大阪府立大学のご協力により、同大学の「I-siteなんば」をお借りしての開催でした。

当日は、避難者はお子さんを含め13名、それを迎える支援者・ボランティアが合計85名参加しました。昨年同様、全体でのイベント的なものは行わないこととし、参加者がそれぞれのニーズに基づいて行動していただけるようにしました。

支援団体からは、①当会をはじめとする各種相談コーナー(弁護士会のほか、司法書士会)、②囲碁将棋、

学習サポート、ストレスチェック、東北の物産の販売などの出展がありました。また、当事者団体も参加され、資料展示や書籍販売等を行うとともに、避難者同士でのお話を楽しんでおられました。また、もはや定例となったヒルトン大阪によるスイーツコーナーや、メイク&ヘアアレンジ、カラーセラピーコーナーなど、今年も幅広い出展となりました。

当会からは、私を含めて5名の弁護士が参加し、4件の相談に対応しました。今年3月末をもって市営住宅等の無償供与の範囲が大きく減らされたことを受け、住宅に関する不安を訴える声がありました。避難者の生活状況が多様化する中で、相談も多様化しており、我々弁護士も丁寧に対応していく必要があります。

3 東日本大震災の発生から6年以上が経過し、世間の関心は薄れているのが現状です。しかし、昨年の熊本地震やつい先日の九州の豪雨などをはじめとして、災害はどこでも起こり得ますし、いつ我々の身に降りかかるかもわかりません。我々は、被害を受けた人たちへの支援を行うとともに、いつか私たち自身が被災者になる時のことも想定して、準備しておく必要があると感じました。

災害復興支援委員会では、東日本大震災の避難者や種々の災害の被災者に対し、今後も息の長い支援を続けていきたいと考えています。引き続きご協力くださいますようお願いいたします。

